

平成 25 年度 第 3 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

【日時】平成 25 年 11 月 26 日（火）午後 5 時 30 分～午後 8 時

【場所】ラブリーホール 第 1 楽屋

【出席者】

〈河内長野市文化振興計画推進委員会委員〉

末延 國康・浅尾 広良・荒川 透・今村 尚美・来村 多加史・栗本 智代・中道 厚子・

長山 公一・中脇 健児・寶樂 陸寛・水落 学・安福 廸子

〈事務局（河内長野市教育委員会事務局ふるさと文化課）〉

大江・井上・東畑・西野

〈オブザーバー（公益財団法人河内長野市文化振興財団）〉

萬木・妻鳥

【配布資料】

- ・平成 25 年度 第 2 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 次第
- ・資料 1 平成 25 年度 第 2 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録
- ・河内長野市文化振興計画策定スケジュール
- ・公益財団法人 河内長野市文化振興財団
 - 平成 22 年度 事業結果一覧表
 - 平成 23 年度 事業結果一覧表
 - 平成 24 年度 文化振興事業 事業結果一覧表
 - 平成 24 年度 事業実施実績概要
 - 平成 24 年度 事業実施報告書
 - 平成 24 年度 事業別アンケート
 - 平成 25 年度 文化振興事業 事業結果一覧表
 - ラブリーニュース 他

以上

〈開会〉

- ・中協委員への委嘱状交付
- ・委員長開会挨拶

案件（１）市立文化会館「ラブリーホール」見学

公益財団法人 河内長野市文化振興財団の概要説明

- ・ラブリーホール概要説明
- ・施設見学
大ホール(舞台、奈落、オーケストラピット、ロビー)、小ホール、和室、
設備監視室、楽屋
- ・ラブリーホール・オリジナル・ミュージカル vol.2「ムーンライトミステリー」の
映像を 10 分間鑑賞
- ・公益財団法人 河内長野市文化振興財団 平成 24 年度事業概要の説明

末延委員長

平成 24 年度は、開館 20 周年記念ということで事業が多い。平成 25 年度の事業概要の説明も併せて求める。

- ・公益財団法人 河内長野市文化振興財団 平成 25 年度事業概要の説明
(年度途中のため、前半部分のまとめが終わっている事業について説明を行う)

末延委員長

施設の見学、かつ事業報告が終了した。始めてこのラブリーホールへ来た方もいるだろう。施設の設備、そして職員の方の様子がよく分かった。それでは、皆さん一言ずつ感想をお願いします。

浅尾委員

私は河内長野市在住のため何度かこのホールを訪れたが、これほど規模が大きかったのだと驚いた。また開館 20 年とのことだが、建物は非常にきれいに保たれている。

今村委員

このラブリーホールには、生徒と共に来た記憶や地域の行事など、思い出が深い。今回初めて奈落など見た。今はこのホールに通う機会が少ないが、もう少しすれば、また機会は増えるだろう。その時、このホールがどういう表情で迎えてくれるのか、10 年後のホールが楽しみ。

来多村委員

文化を伸ばす方向性及びそれに応じたジャンルを定め、かつ多くの事業に取り組んでいる。ラブリーホールの職員の努力が伺える。

栗本委員

魅力的なハードを持ち、かつ大・小ホールなど規模に応じた地域密着型事業を発信している。単なる貸館ではなく、地域の人が参画したソフトを育成する事業を、これからも継続して欲しい。

中道委員

富田林市すばるホールの子供室の使い方は開放的。クラシックコンサートへも、赤ん坊を連れた母親達がこぞって利用している。ラブリーホールはすばらしい施設。もっと子供達が舞台を使い鑑賞出来れば、このまちがさらに好きになる。そのように力を発揮して貰いたい。

長山委員

館の中が思った以上に広く、また、20年経過している古さを全く感じない。但し、設備については最先端とは言い難いため、更新が必要な可能性がある。また、河内長野駅からラブリーホールへ向かう時、車道から一本入った道を通ってきたが、道のりの照明が暗い。もっと舞台の開始前後の余韻を楽しめるような道に変えていければと思う。

中脇委員

他市の文化振興財団の職員という目で長年河内長野市を見ているが、10年間ほど事業が変わっていないように見える。前回の議事録を見ると、河内長野市文化振興計画は総合計画に準ずるとある。「子供、自然と触れ合う、安心して最後の時を迎えられるまち」等といったキーワードが総合計画に書かれているならば、文化振興事業はどのキーワードのシンボルなのか、という部分をはっきり示す必要があるのではないかと思う。市長が変わり、文化施策に対しての姿勢が変わっても、市長の思いに還元し、かつ文化の面から総合計画を実現しているという姿勢を見せることが、ラブリーホールの事業を今後守っていくためにも必要と思う。育成も、地域還元出来るようにすべき。ラブリーホールに行ったことがなく、何をしているのか知らない人が圧倒的に多いと思われるため、説明責任を果たし、その内容が地域へ伝わるようにしていきたい。そのように、見せ方、伝え方を考えていくことが文化施策になるかと思う。

宝楽委員

私は、ラブリーホールの市民参画型事業に関わっている。その側面からいえば、市民と共に作っていく事業が増えつつあるが、まだ発展途上。今後、委員会の中で評価を行っていく際、市場性や地域性、個人が楽しめるもの等といったいくつかの評価のマトリックスを作り、分析した上で、今後の動向の指標にしてはどうか。前回の委員長は、ラブリーホールが行っている様々な分野の事業について、文化の拠点として河内長野らしさを出していく事業と、例えば委託に出す事業等の比較を考えていきたいと言っていた。市民と一緒に作るという姿勢はラブリーホールの職員は皆強く、よいホールだと思っている。

水落委員

自主事業の数が多く、質が高い。他の財団と比較するわけではないが、いわゆるパッケージ買いをして自主事業と呼ぶのと、例えばミュージカルやオペラなど、一から事業を作り上げていくのでは全く質が違ってくる。私はこれだけ多くの事業を行っているラブリーホールは、非常に頑張っていると思う。

安福委員

私はラブリーホールのギャラリーを長年使用しているが、やはり絵画などより、音楽や

舞台のためのホールだと感じる。様々な事業を紹介して貰ったが、知らない事業も多い。その中で目を引いたのは、子供を集めての定期的なスクールであり、次世代に伝えていくというのは本当に大切な仕事だと思う。

荒川委員

他の委員も発言したが、いわゆるプロムナードと呼ばれる、ホールまでの行き帰りの道がある場所は少ないが、整備が必要と思う。今日、ラブリーホールのプロムナードである「ラブリーロード」を通ってきたが、静かで交通量も少ない反面、寂しかった。また、網羅的に様々な事業を行っているが、もう少し絞るべきでは。事業には大人向けが多く、それも必要だが、未来を担う子供達の育成のため、子供に還元できるような事業をもっと増やしたい。

末延委員長

意外に、市民参画型の事業が多い。ただし、大阪狭山市 SAYAKA ホールも同様だが、やはり舞台・音楽芸術に偏ってしまい、絵画などの平面的な芸術が少ないと感じる。河内長野らしさをこれからどうしていくかが、一つのコンセプトになるだろう。この委員会では、「らしさ」の作り方に加えプロムナード環境の作り方、これら2点を進めていけばいいのではないかと思う。特に子供に視点をあてた取り組みや、また、事業を絞るならば何を残すのかということを考える必要がある。ラブリーホールが行っている事業の豊富さ、そして市民参画型事業の存在は、今日聞けて非常に参考になった。

案件（2）文化事業の評価に係る座標軸の検討

末延委員長

平成 24 年度はラブリーホールの 20 周年記念年度にあたるため事業が多く、稼働率が高い。そのため、平成 25 年度の事業説明も行って貰ったが、過去 2～3 年の事業の詳細があれば、参考資料になる。また、事務局は、他の市町村の事業の情報を集めて欲しい。特に近隣の SAYAKA ホール、すばるホールなどの南大阪の取り組みを、委員会を進める上での資料としたい。手元の予定表では、3 月までに、この委員会はひとつの評価軸を出さなければならない。特にソフト面の評価軸をどうするか、委員の皆様には次回委員会までに考えてきてもらいたい。もしソフト面の評価軸に関わることで今意見があれば、発言をどうぞ。

栗本委員

次世代育成のための努力、及び河内長野らしさということでオリジナリティを出すということが重要と思う。それから、地域の憧れのヒーロー・ヒロイン像の作成や、地域のパパ・ママ・お兄さんお姉さんとなる人達の育成など行ってみては。

末延委員長

子供ミュージカルは全て市内の子供達なのか。

妻鳥マネジャー

近隣の富田林や狭山の子供もいる。河内長野市内の子供は約7～8割。

安福委員

子供達の指導者となる方の選び方はどうしているのか。

妻鳥マネジャー

ラブリーホールの職員が選んでいる。歌については、大阪芸術大学の東野様にずっと来ていただいております、子供達の信頼も厚い。また、歌とダンスは定期的に行っているが、近々台詞の授業も劇団ひまわりの協力を得て行う予定。

中脇委員

もし機会があれば、河内長野市の人口の推移予想や年代予想、また税金などの点を教えてほしい。文化事業の年齢客層・収入等に関わってくると思う。ラブリーホールの事業を維持しようとするならば、これが今、河内長野には必要なのだと言えるような、文化施策にしていく事が重要だと思う。

安福委員

ラブリーロードは車では分かりにくいですが、例えば尼崎のプロムナードロードは、芝居を見に行くという気分が高まる。河内長野は、誘うような魅力的なものが欠如しているため、対策が必要。具体的には、歩道に何か描いたり、モザイクにするなど。

末延委員長

ラブリーロードは、中村池公園の方を通る道だろうか？

妻鳥マネジャー

そうです。オープン当初からラブリーロードと名づけ、レンガ敷きのようにしている。駅前から広い道があればいいのだが、なかなか難しい。また、電話があった時、ラブリーロードではなく、どうしても分かりやすい七つ辻を通る車道の道を伝えてしまう。

安福委員

駅からラブリーホールへはゆるやかな上り坂のため、何か楽しく歩けるように出来たら。

妻鳥マネジャー

アルカイクホールの歩道や兵庫県立芸術文化センターのように道を整えるのは難しい。

安福委員

河内長野らしさをそこへ入れては。

荒川委員

羽曳野市のLICはびきのは、駅からの距離が遠いためバス移動しか出来ない。その点ラブリーホールは徒歩圏内。確かに、駅と接しているようなホールは簡単にプロムナードを作れるのだろうが、そういった意味では、ラブリーホールは駅から少し遠い気はする。また、ラブリーロードは暗く人通りが少ないため、車の通りがある道の方が、安全な気がする。プロムナードを作るとしたら照明が必要だが、明るすぎても問題が生じるので、そこを上手く作れたらいいと思う。

宝楽委員

先ほど人口推移の話が出ていたが、我々NPOでは、20年後の河内長野は1.3人で65歳

以上を1人支えると試算している。その結果、高齢者向けの文化施策に偏りがちになるのではないかと危惧しており、その場合、子育て世代や子供達の育成に関わる事業に充てられている予算の少なさを、はっきり示せる評価軸を作りたい。また、やはり劇場の場合は、プロの芸術を紹介する事業に多く予算が使われる。それも重要だが、劇場や地域の文化施設の在り方は、将来の潜在的力を持った人材を迎えたり、地域や未来を育てる、そういうものでありたい。そして、そのことが示せる評価軸を作っていきたい。

末延委員長

もちろん、次世代を担う子供達に焦点をあてた評価軸も必要だろう。

宝楽委員

文化を提供している場所が社会の中で担う役割について、様々な評論がある。そのような役割の中から、河内長野市の芸術力を他市と比較するべき。特に河内長野というまちは、働きに出ている層も多いが、市の中で消費している人も多いと思う。せっかく「奥河内」として魅力を発信していくのであれば、進めるべき方向を示していきたい。

末延委員長

外に向かって発信するという。では、時間があまりないが、他にどうでしょうか。

栗本委員

これだけ立派なホールなので、河内長野市民だけでなく、その周辺の市や大学、専門学校や教室など、対象を広げて発信し、あるいは手を結んで一緒にものを作り、育成をする、ということも一つの手であると思う。特に、大阪芸術大学の先生方も委員会にいるため、学生の登竜門としての位置づけや、南大阪全体の登竜門であるという、そういった具体的取組みを作っていくことも一つの方法としてあるのではないだろうか。

末延委員長

河内長野市在住のアーティストがどれぐらいいるのか、我々はまだ掴んでいない。そういった情報も、進め方の一つの資料になるだろう。産学連携ということでは、千代田短期大学や清教学園もある。学校・大学との連携は、次世代の学生や子供達が対象となる。その他、皆が持っている情報を教えてもらい、次世代へ伝えたい。

荒川委員

先ほど話しにあった高齢化だが、その傾向を容認し高齢者対象事業を行うのか、それとも子供を増やし若い世代を呼び込んでいくのか、それによって方向性は変わる。河内長野市の方向性はどちらなのだろうか。

末延委員長

河内長野市は、新婚世帯への補助など、呼び込むための施策をしていたと思うが。

東畑主査

新婚世帯家賃補助及び持家取得補助といった事業を行っている。子育てに力を入れたいというのは市の思いとしてあるが、なかなか人口増には結びついていない。

末延委員長

補助以外にも、学校や保育所など環境面で魅力ある教育活動が行われるようにし、文化

的事業をさらに推進して教育効果を高める、という方向でまとめていけたらと思う。ソフト面に関して様々な話が出たが、次回から評価軸に絞って会議を進める。皆さん、次回までに意見を考えてきてもらい、その意見が評価軸になるかどうか分からなくとも、とにかく考えを出し合ってもらいたい。そして、少しずつ選別していきたいと思う。

案件（3）その他

- ・栗本委員より、チラシの配布
- ・ラブリーホールより、近日開催予定事業の招待券配布
- ・次回会議の予定を連絡「1月17日（金）午後6時30分～」

〈閉会〉